市長日記 むーナーゲー 無罪礙

南魚沼市長　林　茂男

「ああ上野駅」昭和は遠くなりにけり。

大宮駅は、政府の新都心化の位置づけ後、上越新幹線はもとより東北、北陸新幹線の要衝に位置する、東日本と北陸の玄関口として発展を続けています。その大宮を有するさいたま市の清水勇人市長が、地方創生と地域相互の活性化に向けて「東日本連携・創生フォーラム」の立ち上げを呼び掛け、当市もそれに呼応し、参加しています。勢いある地域を担う、全国区のやり手市長。人口130万人を超える政令指定都市で、当市とは旧与野市からの友好都市でもあります。呼び掛けは「地域資源を相互活用し、相乗的に地域を活性化していこう。文化、ヒト、モノ、情報の交流を促し、経済活動を連携して高め合おう。新たな可能性を導き出そう」というもの。北海道から東北、北信越地域の14道県25の市町が現在参加。多くの自治体や経済団体はまだ様子見の段階という印象ですが、当市は積極的に連携を進め、強固な関係をつくるべきという思いです。3月28日㈭には、大宮駅東口に「東日本連携センター」がオープンし、参加している市町の物産や情報発信を開始します。今後のすばらしい展開が期待されます。

先日、南魚沼の進める「雪の利活用プロジェクト」について清水市長と話す機会が持てました。「さいたま市周辺は日本で最も気温の高い記録を作るエリア。オリパラの暑さ対策で連携しませんか？」と。市長は大いに興味を示してくれ、意気投合。数日後には職員を当市に派遣くださり、今夏のプレイベントから取り組むことに。一方で、大宮から南魚沼は新幹線で所要約1時間。国際的な感覚では、隣町です。清水市長はつぶやきました。「さいたま市は宿を賄いきれない。観戦者などが都内の宿泊施設に向かうより、南魚沼のほうが早いのでは」。狙うべき道が明らかになってきたと思います。

連携相手は、東京ばかりではない。かつて首都の玄関口といえば、昭和歌謡にあった「ああ上野駅」。時代は移ろっています。

国際大学留学生 お国自慢コーナー ～ boast of my country ～

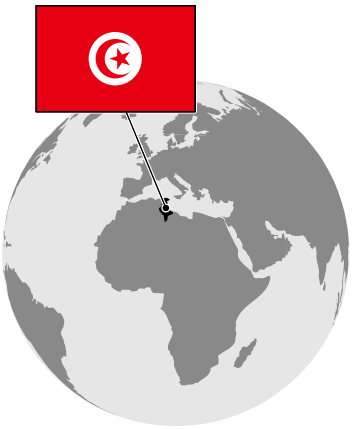
シリーズ 第71回

チュニジア共和国　**ロトフイ ギダラ さん**

私の国はこんなところ

チュニジアは、マグレブ（北アフリカ北西部のアラビア諸国。「日が没するところ」を意味する）の中では一番小さな国ですが、南北に長く、地中海のビーチ、内陸のサハラ砂漠、山や渓谷など、景観は変化に非常に富んでいます。3,000年以上の古い歴史があり、古代遺跡が数多く存在しているので、遺跡に興味のある旅行者が多くやってきます。

チュニジア料理は地中海料理ですが、より辛く、クスクス（粒上のパスタ）が有名です。チュニジア人は情に厚く、おしゃべりが大好きで、文化を披露するのが好きです。チュニジアに訪れたら、満面の笑顔で大歓迎されるでしょう！



チュニジア共和国

［公用語］アラビア語
［首　都］チュニス
［面　積］163,610㎢（89位）
［人　口］10,670,000人（80位）
［GDP(PPP)］1,377億ドル（78位）
［通　貨］チュニジア･ディナール（TND）
※GDPは国内総生産のことで、購買力平価説（PPP）により算出した数値です

南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼での暮らしでは、地域の人たちがいつでも助けてくれて大変感動しました。また、野菜と果物がとても新鮮なことに驚きでした。一番の思い出は、浦佐の八色スイカまつりで家族と一緒にたくさんのスイカを食べたことです。母国ではパンが主食なのでお米はほとんど食べませんが、南魚沼産コシヒカリはとてもおいしく大好きです。